

人文学・社会科学からの応答を 活性化するために

国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授
小長谷有紀

20180928

科学技術・学術審議会 学術分科会総会

人文学・社会科学の有用性については 一疑念から期待へ

Society5.0= 情報社会に後続する、超スマート社会

仮想空間＋現実空間

経済的発展＋社会的諸問題の解決

一人一人のしあわせ

非寛容の時代においてますます

生物／文化／学術などあらゆる面での多様性の意義

応答の諸問題

- 1) 問題が複雑なので個人、個別分野では応答しづらい
→学際的な共同研究の推進
- 2) 大型研究費(新学術領域・課題設定先導など)の低調
→制度面での改善
- 3) 一般科研における「応用偏重・基礎軽視」?
もし過剰な応答があるとするならば
→基礎的な研究に基づく情報蓄積の推進
- 4) 法人単位の競争における非学術的側面
→学校際的な共同研究の推進

話題提供

1) 人間文化研究機構の試み

国際共同研究の推進体制

人文知コミュニケーター

サイエンスマップ

2) 個人的な試み

価値の予測不能性

遺産化

国際発信

人間文化研究機構(2004～)

国立歴史民俗博物館(1981～)

国文学研究資料館(1972～)

国立国語研究所(1948～)

国際日本文化研究センター(1987～)

総合地球環境学研究所(2001～)

国立民族学博物館(1974～)

総合人間文化研究推進センター(2015～)

Center for Trans-disciplinary Innovation

<目的>

現代的諸課題の解明 に資する 基礎的研究を推進する

<方法>

諸大学と組織的に連携する

諸大学を通じて地域社会と連携する

<任務>

学際的共同研究を推進するための制度設計・運用

基幹研究プロジェクト(運用上の分類)

- 1) 機関拠点型(各機関のミッションを体現するもの) 6件
- 2) 広領域型(複数機関+機構外機関で分野を広げるもの) 3件
日本列島における地域社会変貌・災害からの日本文化の再構築
アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開
異分野融合による「総合書物学」の構築
- 3) ネットワーク型(機構外機関をつなぐもの) 2種8件
「地域研究推進事業」北東アジア／現代中東／南アジア
「日本関連在外資料調査研究・活用事業」

北東アジア地域研究の課題

国内諸大学の諸研究所

扱う史資料の言語によって分断されがち！

諸機関のネットワーク

多国間関係の「地域」への転換！

→プロジェクト形成に1年を費やす

拠点ごとにテーマを分担する仕組み

「北東アジア地域研究」

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(国・共共拠点)

東北大学東北アジア研究センター(国)

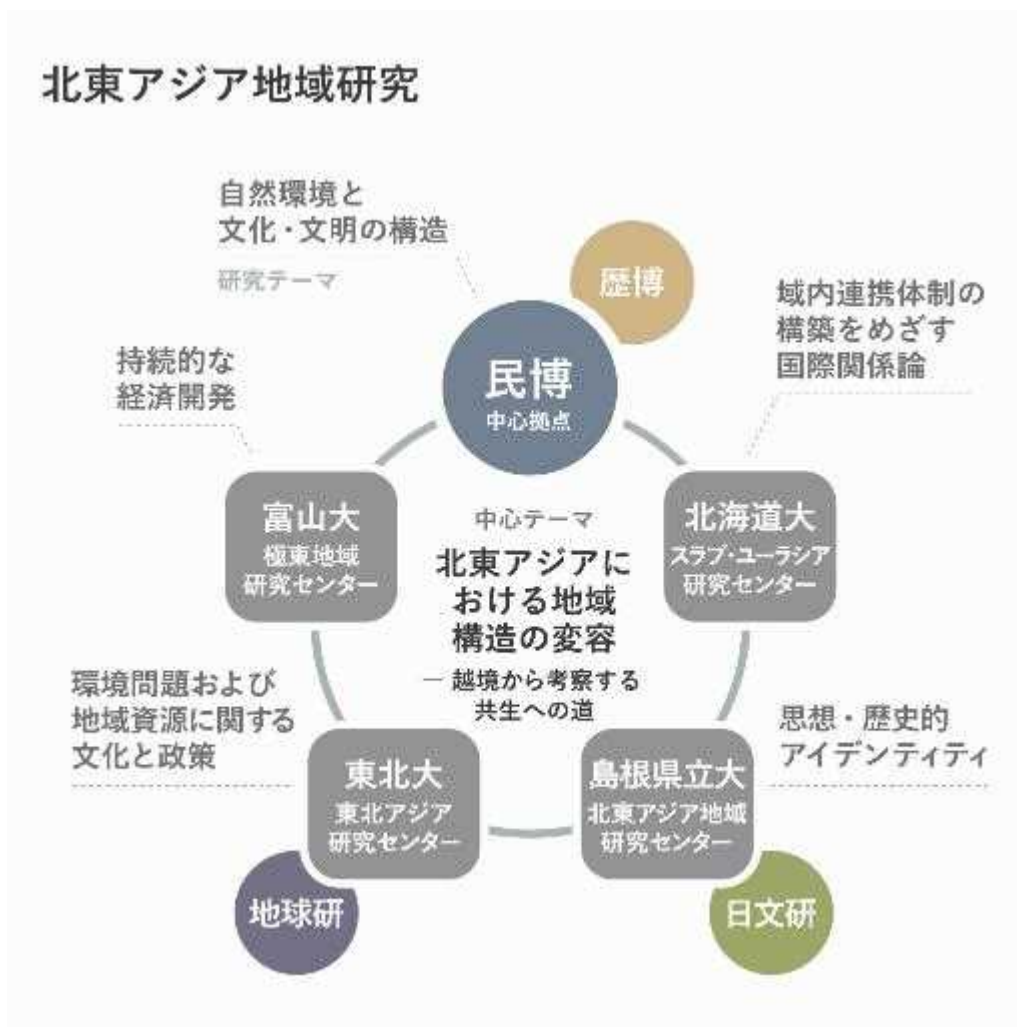
富山大学極東地域研究センター(国)

島根県立大学北東アジア地域研究センター(公)

国立民族学博物館北東アジア地域研究拠点(中心拠点)

早稲田大学総合研究機構現代中国研究所(私)

テーマ分担



同プロジェクトの特徴

- 1) 各研究所が得意な「テーマ」を担う
- 2) その「テーマ」で得意な地域以外も扱う
そのために、他の機関からも研究者が参加する
→研究機関をノードとする研究者ネットワーク
- 3) 若手研究者を雇用する
→若手研究者のOJT(研究経費とほぼ同額を支出)
- 4) 研究経費は600～800万円程度
→明確なPDCA

新しいプロジェクトのかたち

- 1) 採択プロセスよりも、形成プロセス(競争ではなく、共創)
- 2) 機関単位だから教育裨益もあり
- 3) 問題解決よりも、社会的課題に向けた基礎的研究
- 4) 単独の大規模資金ではなく、マルチの中規模資金
- 5) 若手の使い捨てではなく、キャリアパス付き(テニユアー)

※「新学術領域研究」

理工系との共通基準により、採択件数が極少！

※「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」

社会科学中心・一般科研との差別化・先導的成果の広げ方

提案その1: 共創型プロジェクト

大きな課題を提示

研究案を募集

応募者たちのブレインストーミング

研究プロジェクトを共創する

研究者ネットワークに研究組織ノードがあることによって

中型科研程度でも、学生や大学院生に裨益する

採択されなくても、共創過程が資産になる

自分たちで科研を申請すればいい

「在外資料の調査研究」

諸課題

- 1) 海外のニーズに対応しきれない
- 2) 国内の研究者を動員しきれない
- 3) 標本資料データベースは、メタデータが不定形
登録の国際標準化と「公開化」

Cf. 国内資料の保存問題(全国各地で資料被災)

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク」

「歴史文化資料保全NW事業」の
運営体制・重点課題



歴ネットワーク

タスク1 新しい研究をつくる

タスク2 人材育成

タスク3 レスキュー活動

↓

タスク1' メタデータのつけ方に関する国際共同研究

タスク2' メタデータセットを作る(入力業務)

タスク3' 人材育成

タスク1' = 科研で

タスク2' = 事業で

提案その2: 共創型プロジェクトのテーマ

文化的情報というコンテンツ作成

= 人文系のみ基礎的課題であっても

新しい技術駆動型

方法論的革新(超スマート社会に貢献)

物質資料もデジタル・プラットフォームに乗せる!

まだ参画していない研究機関や研究者を巻き込み、
(既得権を超えて)プロジェクトを共に創る

「人文知コミュニケーター」

機構本部から各機関へ派遣

インターンシップ@科学未来館

国語研では方言展示

地球研では映像作成

...

各機関の強みを発信したい

機関のシーズ>社会のニーズ

社会の求めに応じる**学術コンシェルジュ**へ

「人文系サイエンスマップ」

<目的>

人文系研究の可視化(評価法の刷新)

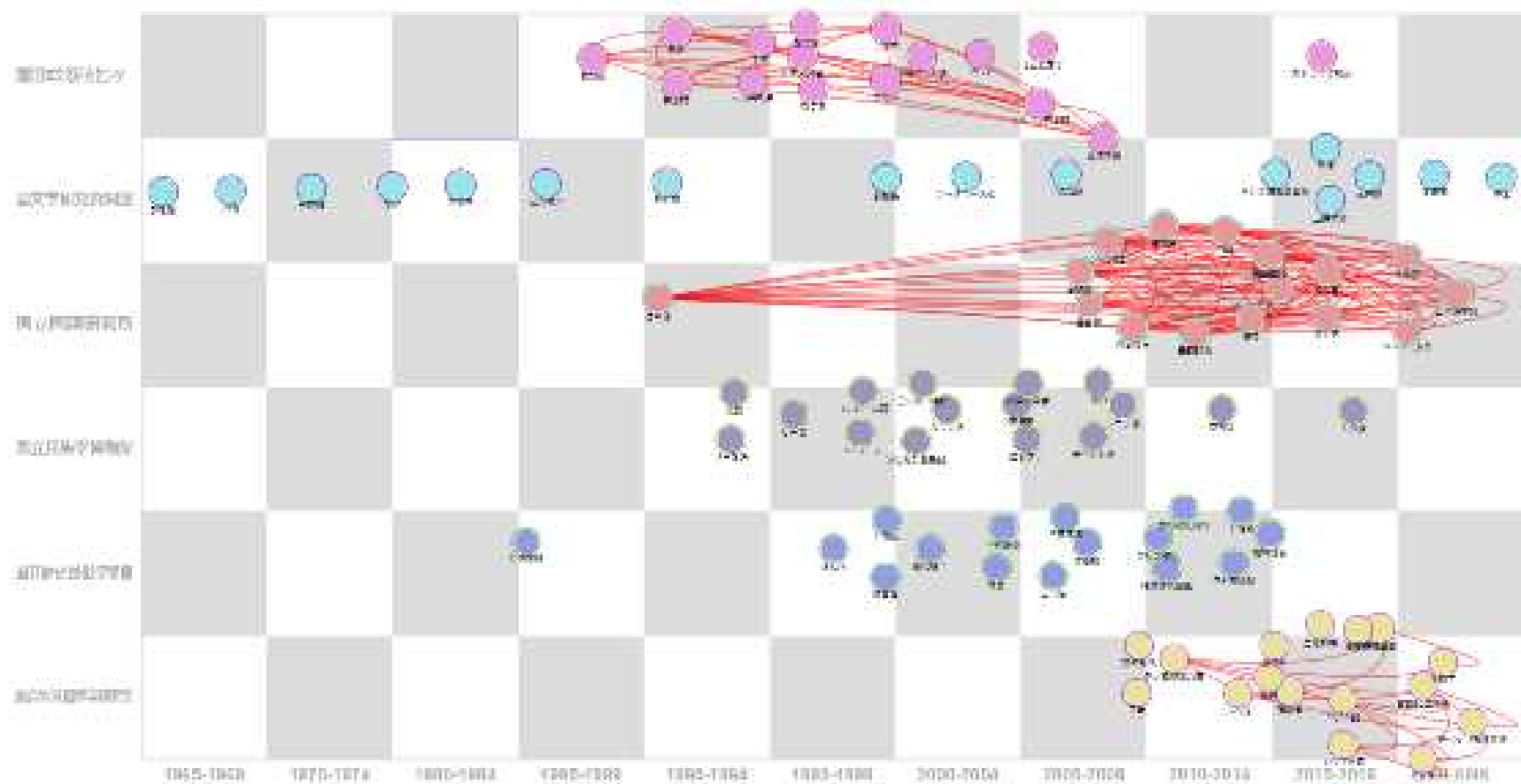
<方法>

機構リポジトリ15000本

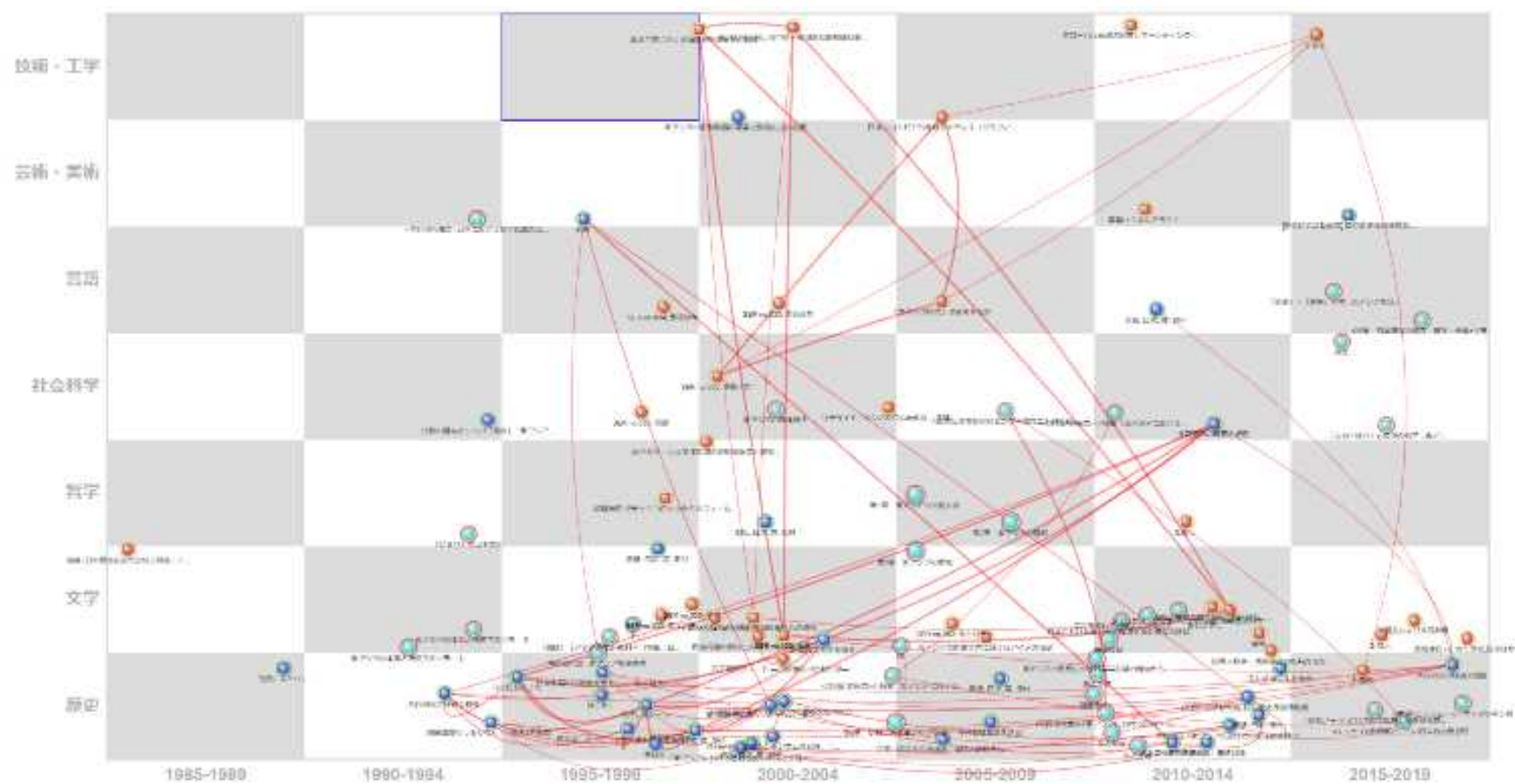
テキストデータから類似性

二次元で表現

「鹿児島・方言」 諸論文の時空分布



「東アジア」 諸論文の領域関係



「人文系サイエンスマップ」の使い方

広領域における研究史の把握(俯瞰力の獲得)

関連研究業績の検索

(組織の)研究力の分析

被引用ビブリオメトリクス以外

評価軸の多様化

熟成係数？（価値の予測不能性）

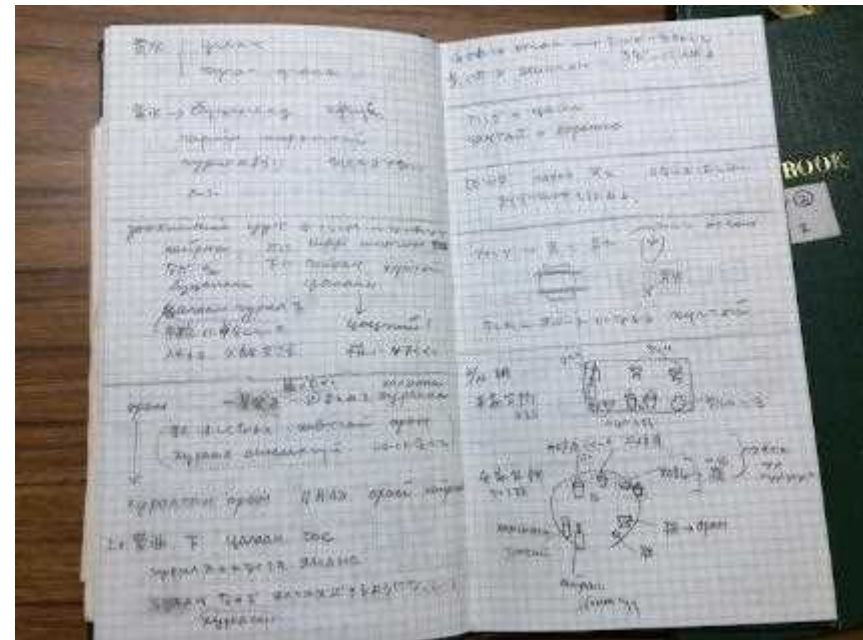
卒論の一部を投稿した査読付き論文
「オトルノートーモンゴルの移動牧畜をめぐって」
『人文地理』1983

当時はフォローアップゼロ

モンゴルが市場経済に移行し、国際開発研究の分野で引用されるようになってきた（2003～）

熟成係数30年（30年後の価値は予測不能）
「先見の明」とは直ちに評価できないことを指す

生活文化の詳細な記録 その一つとして乳加工



学界とは異なる、業界の評価

修士課程期に投稿した査読コメント付き論文
「モンゴルにおける乳製品の製法体系」
『季刊人類学』1984

査読コメントはオリジナルな「解釈」を厳しく却下
ただし、東アジアにおける乳加工体系を明示

科研費いらずの研究テーマ

雪印、サントリー研究所、カルピス、アサヒ飲料、J-ミルク(一般
社団法人)、チーズプロフェッショナル協会(NPO)

100年後に遺す

旧社会主義圏

民主化・市場経済化という急激な社会変化
(過去の)価値の喪失

政治家のライフヒストリー(初めて尽くしの人生)

映像＋モンゴル語資料＋邦訳＋一般書(抄訳)

『モンゴル国における20世紀—社会主義を生きた人びとの証言』(中央公論新社2004)

100年後の感謝を想定

直ちに評価されて英訳化もされた

英訳化により、国際的な被引用が増大

100年後に遺す(2)

『エジネーに生きる母たちの生涯』(2007など)

中国内モンゴル自治区アラシャン盟エジネー旗

老女18人の生涯を聞き取り

モンゴル語(縦文字) + 日本語 + 中国語

英語

直ちに評価されて(モンゴル語)キリル文字化

カルムイク共和国まで流布

提案その3: 学術資産の国際化

古くても価値がある

古くなるほど価値が出る(社会のモニタリング機能)

英語化により利用度が増す

英文3点セット(title, keywords, abstract)があれば

国際的な学術資産にすることができる

学術資産の国際化プロジェクトに若手研究者を雇用

人文学・社会科学の必須性

人間あるいは人間社会を研究対象とする学術
社会への応答力は本来的に備わっている
その力を増強・加速・持続する

人社をうまく取り込めていないプロジェクトは不可とする？